



新規就農革新

新潟県 津南町



お問い合わせ先
津南町地域振興課
〒949-8292
新潟県津南町大字下船渡戊585
TEL・FAX 0257-65-3111

**河岸段丘に広がる
広大な優良農地**

津南町は新潟県南端に位置する人口約一万二千人の町です。信濃川に志久見川・中津川・清津川が合流する地点にあり、見事な河岸段丘が広がっています。町の基幹産業は、魚沼コシヒカリに代表される農業です。冬期は3メートル以上の積雪が珍しくない豪雪地帯で、マウンテンパーク津南をはじめとするスキー場がにぎわいます。信濃川流域には数多くの発電所が建設され、東京電力(株)最大の年間発電電力量を誇る信濃川水力発電所(一七万七千キロワット)や同社の中津川第一水力発電所(一三万六千キロワット)のほか、東北電力(株)宮野原水力発電所(二千五百キロワット)などがあって、首都圏をはじめ各地に送電されています。

**将来の畑作を担う
新規就農者を育てる**

津南町は中山間地域でありながら、雄大な河岸段丘という地形上の特性に加え、開発事業の成果もあって平地に近い大規模な農業経営が可能のため、安定した農業就業人口が確保されています。全国トップクラスの人氣米を擁する稲作は、出荷価格が高値で安定し、機械化も進んでいるため高齢農家も意欲的に続けています。しかし、畑作は出荷価格が不安定で、重い作物を扱う上には作業の割合も高いため魅力に乏しく、貸し農地や耕作放棄地も目につきはじめています。

そこで、平成七年の財団法人津南町農業公社の設立を機に、町外からの新規就農者の受け入れに取り組み、十年間で約二十名の就農・定住を実現しています。ここでは、充実した生活支援制度や研修制度を通じて、新しい畑作の担い手を生み出す津南町の新規就農者支援制度を取り上げます。

新潟県中越地震による災害のお見舞い
このたびの新潟県中越地震の被害を受けられた地域の皆様に、謹んでお見舞い申し上げます。一日も早く復旧されますよう、心よりお祈り申し上げます。

CONTENTS

特集：電源地域のサクセスストーリー

新規就農革新

新潟県 津南町

受け入れ機関の一元化で素人就農を支援

津南式新規就農者支援制度

不屈の精神力を持つ これが受け入れ資格

情熱を失わぬ新規就農者たち、それぞれの今

早河聖光さん

島田有介さん

岩本丈典さん

新しく農業をやってみたいという方々へ

DATA PAL

津南町

FOCUS 政策制度

日本の原風景「棚田」を守る地方と都市の交流活動

棚田オーナー制度

交流から定住へ 棚田再生による地域おこし

大山千枚田オーナー制度

千葉県 鴨川市

ふるさとじまん

秋田県 八竜町 / 千葉県 袖ヶ浦市

福井県 あわら市 / 山口県 福栄村

情報クリップ

地域価値創造力

「エネルギープラザ2004宮城・女川町」

「電気のふるさとじまん市 札幌」開催のお知らせ

「地域のひろば」は、電気のふるさとのもちづくりを応援する情報誌です。

表紙イラスト・相原健二

畑作の担い手を求めて

国営農地開発事業のおかげで津南町の畑地は一区画が「三畝と広く、全域にかんがい施設が整備されているため、大規模な野菜栽培には最適です。それでも津南町地域振興課の石橋さんは畑作の難しさを次のように語ります。

「稲作の場合、十畝あたりの収量は七百キログラムで、機械化も進んでいません。これに対し畑作の場合には、同じ十畝あたりで二トンで三ツト、加工トマトで七〜八割もの収量があり、手作業も多く残っています。高齢化した農家が、作業の厳しい畑作を敬遠するのも当然です」

そのうえ、「シロガリ」人気の陰で、地元で畑作を続けようという人は必ずしも多くないため、平成七年の財団法人津南町農業公社の設立を機に、本格的に新規就農に取り組み始めました。

「町が資金面、JAが指導面を担うやり方では、就農者本人の希望や農地のあつせんをうまく連携できません。その点、農業公社なら農地の売買も可能ですし、資金面と指導面を一元化した受け入れが可能です。私たちは、住居の確保と農地のあつせんは、新規就農者に対する最低限の責任と考えていますが、これらを自由に行えるのが公社の強みです」

JAや地元農家の協力も不可欠です。JAは技術指導や経営相談のほか、農業機械のリースや資金融資など、多くの重要な役割を果たしています。地元農

家は、農作業の研修や指導だけでなく、就農者の頼れる相談相手ともなっています。

津南町の新規就農者に対する支援制度の概要は次のとおりです（次ページの図も参照）。

技術・機械・住宅すべてを支援する津南方式

制度1 生活資金の支援
農業収入で生活が可能になるには三年から五年はかかります。このため、研修中には月十五万円の生活費を支給しています。

制度2 農業機械の助成
就農時には、トラクターや堆肥散布機などの農業機械が必要です。そこで、県六割、町二割の計八割という高率の購入資金

補助を行い、残額はリース料としてJAに支払う形で、当初の自己負担をほぼゼロに抑えています。

制度3 住宅の確保とあつせん
新規就農者向けの町営住宅（一棟建設し、研修中は月一万円単身者用）または二万円家族用の低家賃で賃貸しています。現在はほぼ満室で、他にも町内の空き家や貸家があつせんし、安定確保に努めています。

制度4 農業機械や作業場の確保
農業公社が保有する農業機械を、就農準備期間中に貸し出しています。また、野菜のハウスなどに利用できる作業場を、二棟九プロック（九名分）用意しています。

受け入れ機関の一元化で素人就農を支援 津南式新規就農者支援制度

津南町の新規就農者支援制度の特徴は、農業公社を中心とする一元的な育成制度にあります。受け入れ主体の一元化によって、住宅の提供・あつせんや生活費・農業機械購入などの補助に加え、地元農家や農業公社での三年間にわたる農業研修など、充実した制度を実現させたのです。津南町と農業公社が用意した数々の制度について、津南町地域振興課・農林班長の石橋雅博さんに伺いました。

支援制度の充実を図りながら、「新規就農者よりも地元にお金を使ってほしい」という声にも配慮して、町の支出を極力抑える工夫をしています。例えば、国から新規就農者への貸付金を一定期間後に県の補助金で償還するなど、国や県の補助金を精査した上で効果的に活用しています。

就農者の決意以上の覚悟で育てる

平成七年に四人の新規就農者を受け入れたときは、先進的な取り組みがメディアで大きく取り上げられ、宣伝経費を抑えることができた。現在は、全国農業会議所内にある青年農業者育成センターが年一回開催する「新規就農セミナー」がPRの中心です。近年では受け入れ市町村も増え、就農先も分散傾向にあります。先駆者として津南町が果たしてきた役割は小さくありません。

他地域は、農業法人に就職して職員として働きながら勉強し、その後独立する人が増えています。当初から経営リスクを負わずにすむため、農業経験がなくても始めやすいのが理由です。一方、津南町のように最初から個人で新規就農する方法は、従業員一名のベンチャー企業を起業するのに似ています。農業はもろもろ、販売なども含めた経営全体を自ら考える必要があるからです。

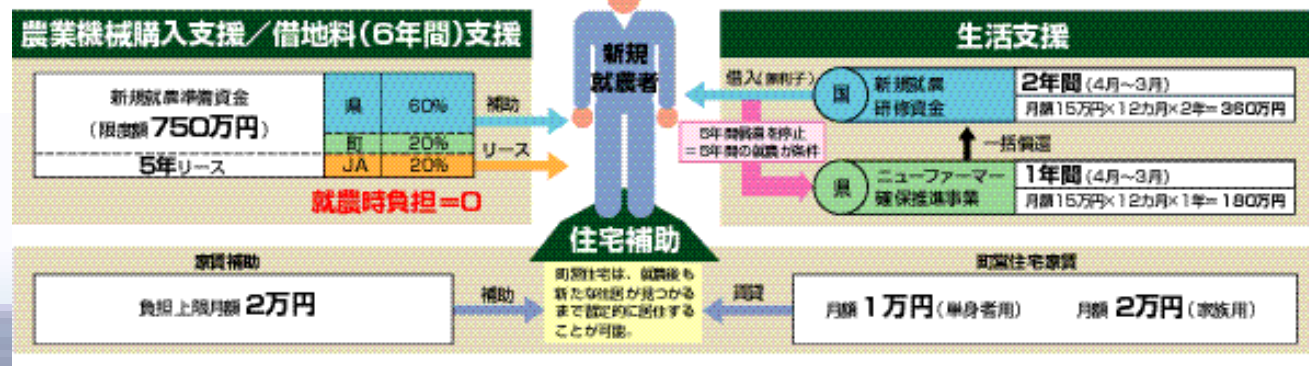
「JAや地元農家などの指導者に恵まれた津南町といえども、町を含めた地元の指導体制だけでは、経営面の体系的な指導に限界があります。地元の農家自身、これまではよい作物を作ることに専念し、経営ノウハウの十分な蓄積にまでは至っていないため、この点は今後の課題です」



津南町地域振興課 農林班長 いしはしまさひろ 石橋雅博さん

「新しい制度が始めるには、障害がつきものです。受け入れる側には、何があっても定着させるという、就農者に負けないくらいの決意が求められます」

新規就農者を支える充実した資金援助制度





「一人前まで十年」
まず問われる
就農への覚悟

「農地も、住宅も、機械もない状態で農業を始めるのは無理があります。就農しても、すぐに食べられないほど甘くはありません。何年もかかると、やっと納得のいく作物が作れるようになった途端、輸入作物の台頭で相場が急落して転作を余儀なくされたり、精魂込めて作り上げた作物が天災で全部だめになったり。自分の力だけではどうにもならないのが農業の難しさです。新規就農を目指す人たちは、このような農業の難しさや津南の畑作の現状を徹底的に説

不屈の精神力を持つ これが 受け入れ資格

津南町は、平成七年から平成十六年までに、のべ数百名の候補者から二十名の新規就農者を受け入れました。少数精鋭を貫く裏には、明確な理由があります。プロになるための農業指導から、営農指導や生活指導、地元農家との付き合い方に至るまで、責任を持って面倒を見られる人数には限りがあるのです。農業の現実を知ってなお「どんなに厳しくてもやりたい」という人だけを、しっかりと受け止めるのが津南町の方針です。

「新規就農者には大きなハンデがあるのですが、本人のやる気ももちろんですが、相応のバックアップが必要です」

研修先農家との 二人三脚でプロになる

「新規就農者には大きなハンデがあるのですが、本人のやる気ももちろんですが、相応のバックアップが必要です」

新規就農者は、一年目には地元農家に研修に行き、農作業の手伝いをしながら指導を受けます。二～三年目は、公社の農場でより体系的に農作業を学びます（詳細は下表参照）。最初は受け入れ農家の意識にも差がありました。最近では体系的な指導ができるようになりまし

「指導には、農作業を理論的に教えられる人が必要です。面倒見がよいことも条件です。研修後も、栽培技術や生活まで、幅広い面で就農者の相談に乗ることが大事です」

実際、新規就農者の多くは研修先の農家を師と仰ぎ、ときに親子のように緊密な関係を作りながら、たびたび相談に訪れま

す。また、農業を続けるには地域社会に溶け込むことが不可欠ですが、そのためにも研修先の農家の存在は大きいのです。外部の人間を受け入れることに地元の抵抗が無かったわけではありませんが、石橋さんは将来に向けた可能性に期待してい

農業を体で覚える 3年間に及ぶ研修制度

年数	内容	ねらい	指導
1年目	農家研修	農家の手伝いを主として、農家・農家の実情を理解する	農家
2年目	公社研修	研修農地を1人あたり50a～1ha提供し、種まきから収穫まで体験することで、農作業をトータルに理解しながら就農に備える	1名の専任指導員
3年目			
就農後			

新規就農者に対する、津南町の農業研修制度の概要は表のとおりです。実際には、就農者本人の希望もできる限り尊重した上で、研修内容が決定されます。また、公社用とは別に、新規就農者が利用できるトラクターやたい肥散布機などの農業機械を用意して、負担の軽減を図っています。

「さまざまな経験を持つ人材が加わることで、ITを活用した農業や、魚沼コシヒカリに負けない新たな畑作物への挑戦など、夢は大きく広がります。十

年後、二十年後の町の姿を想像するだけで楽しくなります」

研修後のひとり立ち支援 が今の目標

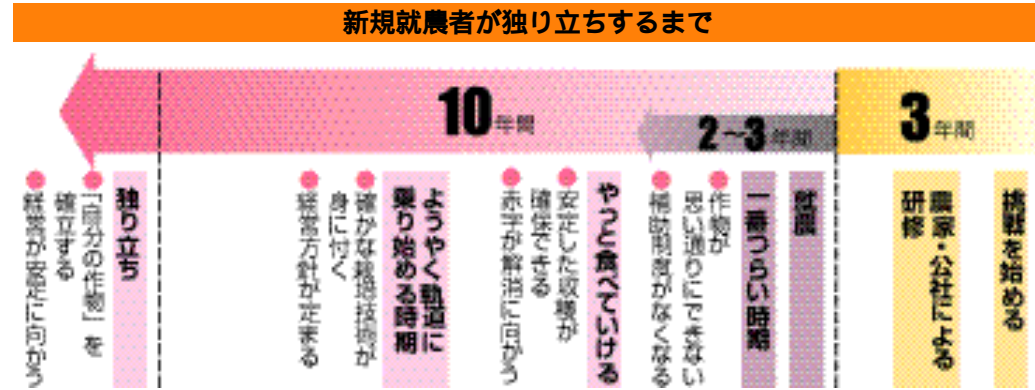
「最近では、受け入れ人数を絞り込んでいくのが実情です。まずは現在ががんばっている人たちの経営を安定させ、一人ひとりを一人前の農業者に育て上げる。それが津南町の一貫した方針であり、受け入れた私たちの責任だと考えて

いるからです。

「三年間みっちり研修を受けても、『はい、卒業』とはならないのが農業の厳しさです。就農して五年くらいは、自分で考えたとおりに物事が進まない上、補助もなくなっていく時期が続きます。もともと、津南町では就農時に巨額の機械投資が必要な稲作や、栽培が難しい作物はなるべく避けて、農業収入で生活できるようにすることを第一の目標にしています。しかし、最近では新規就農者の主力作物だったニンジン相場の低迷が

続くなど、厳しい状況が続いています。そんな中、安心して畑作に取り組んでもらうには、適切なノウハウに基づく農業指導

や、住宅のあっせんなど継続した生活面の補助が欠かせません。加えて、研修先の農家を通じて就農者が、困ったときに助けを求められるだけの信頼関係を地域に築くためにも、年間一人か二人の受け入れが精一杯だと分かってきたのです」



「ひとたび受け入れたら徹底して面倒を見る」というのが津南町の方針



農業公社の実習風景。石橋さんも教える。

ひとたび受け入れたら、本人が自立できるまで徹底して面倒を見る。これこそが、津南町の新規就農支援制度の最大の特徴であり、数多くの就農者を定着させてきた理由なのです。

情熱を失わぬ新規就農者たち、それぞれの今

平成十六年現在、津南町の新規就農者は二十人で、うち二人が研修中、十八人が実際に就農しています。就農に至る経歴や畑の規模、作る作物は違ってても、根底に流れる「農業が好き」という熱い思いは変わりません。どんなに努力しても思い通りにならない天候や作物に、ときに楽しささえ奪われそうになりながらも、日々、喜びに満ちて農業を続ける姿にはうらやましささえ感じます。ここでは、後悔なき選択をした新規就農者の姿を取り上げました。



「農業は天職。父の背を見て育ててほしい」

はやかわきよみつ 就農六年目

早河聖光さんは、イベント製作会社やコンピュータ会社勤務などを経て、農業にたどり着きました。作物はコリや水稲が主体。いずれも栽培技術が難しく、新規就農者があまり取り組まない作物ですが、研修先農家や周囲の先輩たちにも支えられ、五年目の現在は収穫も安定しています。早河さんは、自分には「農業しかない」と言い切ります。

半分が不合格 地域ブランドの厳しさ

ピニルハウス組立の仕事で

偶然、津南を訪れた私に、農業を始めるきっかけを与えてくれたのが、後に研修先となる農家でした。コリと稲の栽培を大規模に手がけていて、私にとって農業の師匠です。町の担当者には「難しいからや

めろ」と言われましたが、あえて研修制度が推薦する作物を捨て、師匠の作物への挑戦を決めました。

師匠は大変厳しい人で、研修中も手取り足取りは教えてくれませんでした。途方に暮れた私は、草取りや掃除から始め、自分で少しずつ仕事を覚えましたが、それこそがいずれ独立するのだから、何をすればよいかは自分で考える」という無言の指導だったのです。私が、栽培について深く考え抜く習慣を身につけることができたのも、こうした師匠の教えがあればこそです。

現在、私のコリ畑は約四十アールです。津南のカサランカ（コリの一品種）は、雪美人」のブランドで全国的に有名で、津南町のコリ全体の販売額は年間四億円を超えます。その分、非常に厳しい共済制度があり、JAによる抜き取り検査や、仲間内の会合を通じた品質チェックを行って、基準に満たないものは絶対に出荷しません。当然、新規就農者も例外ではなく、私の場合、一年目は丹精込めたコリの半数が「ハネダシ（規格外）」となり、泣きたくなかったこともあります。一目では分からないくらい葉が黄色が

ついているだけで失格なのです。

同時に、落後者を出さないための研修会などにも一般の産地以上に熱心で、先輩たちは私のような新参者にもきめ細かくアドバイスしてくれました。地域全体の仲間意識で、ブランドを守り続けているのです。おかげで、私も最近ではようやく規格外を三割に抑えられるようになり、一割以下という目標も見えてきました。

平成十一年、品質のすばらしさを組合員の努力が評価され、日本農業賞の大賞を受賞。

津南でやるからには「コシヒカリ」を作りたい

せっかく津南に来て農業をやるからには、やはりコシヒカリを作りたい。そこで、就農後すぐ地元集落に家を借り、近所のお年寄りともゲートボールを楽しみながら、地域に溶け込めるように心がけました。田んぼを借りることも一つとして、日頃から築き上げた信頼が第一だと思っただけです。そのかいあって、少しずつ田



んぼを任せてもらえるようになり、今では約一・七畝の田んぼを借り、ほかに三畝の作業受託もしています。作業受託は経営的な利益は高くありませんが、稲作を続ける上での信頼を得るため、機械の稼働率を上げるために行っています。機械を使う稲作は五畝が採算ラインといわれ、ギリギリの状態ですが、将来ももっとたくさん田んぼを任せてもらえるように頑張っています。

楽しさも厳しさも分かっています。ただ、子供たちに将来「農業を継ぎたい」と言われたら悩むと思います。天候不順による作物の出来不出来など、自分の努力が及ばないところでもうまい目にあっても、前向きな気持ちで耐えられるくらい好きでなければ、絶対に続けられないのが農業だからです。でも、土とふれ合い、自分の手で生き物を育て上げる農業の喜びはもって大きい。そのことだけは伝えたい。それと、子供たちが「やりたい」と言ってくれたときには、できる限りの用意はしてやりたいと思います。今は、農業に打ち込む父親の姿を見せることができませんが、子供たちが少しでも農業を好きになつてくれれば、と願いながら働いています。自分は農業が大好きで、農業しかできない人間だといつことが、津南町に来てよく分かりました。

「努力も結果も自分で背負う。それが農業」

島田有介さん 就農九年目

前職は公務員という島田有介さん。一度きりの人生だから、自分の責任で取り組める仕事をしたいという思いを胸に、四十歳を過ぎて農業の世界に飛び込みました。家族を横浜に残しての単身赴任は大変でしたが、得たものも大きかったと振り返ります。島田さんは、農業を続けるうちに、都会とは違う価値観を手に入れた」と語ります。

十年の経験を生かしニンジンを野沢菜へ

就農時に四十歳を超えていた私に、津南町が「来てもいいよ」と言ってくれたときは感激しました。農家で一年間研修しましたが、年齢の関係で制度を利用できなかったため、自分で失敗して、痛目にあいながら仕事を覚えてきました。

この十年は、農業に転職した私の覚悟を問う十年でした。就農以来続けてきたニンジンは相場の低迷が続いたため、あきらめざるを得ませんでした。就農制度が推薦するニンジンをやっ

つたと、自分でも初めて気付いた時期でした。しかし、今年からは野沢菜を作っています。契約栽培に近い取引なので、決められた出荷数の確保に追われています。

自分に野沢菜が作れるかどうか心配でしたが、作物は変わっても、十年間の経験は生きていました。身につけた農業技術でうまく軌道に乗せることができました。ニンジンは収穫が年一回なので、一度失敗すると翌年までチャンスがありませんが、野沢菜は年に何回も収穫できるので、すぐに次のチャレンジができ、勉強になります。今年、約二畝の畑を全部野沢菜にしましたが、ニジンより神経を使わずにすむほごです。収穫が手作業なので、人の手



農業を続けることで価値観が変わった

一生懸命やっても、よい作物ができるとは限りません。でも、手を抜けばそれなりのもので済みます。だからこそ、よい作物ができたときの喜びもひとしおです。

一から十まで、自分の責任で仕事ができるのも農業の魅力です。自分がまいた種が育ち、作物となって出荷され、やがて誰か

の食卓に上ることを考えると、それだけでうれしくなります。新規就農は、お金もつけないように思ってしまうと後悔します。でも、農業が好きで、「そこそこ食べていければいい」と思う人なら、きつと続けられます。私自身、十年間ですっかり価値観が変わりました。都会は便利で、お金を払ってほしいものをそろえるのも簡単です。でも、ここでは少しくらい不便でも、ほしいものが手に入らなくても、ゆったりと自然と向き合っていく、作物とふれ合いながら、自分で食べるものは自分で作ることもできます。私には、その方がよほど幸せです。

野沢菜は農閑期がなく、遠くに住む家族になかなか会えませんが、後悔はありません。午前二時から収穫をしたり、暴落により経営的に苦しい時期もありましたが、農業が楽しくてしょうがないのです。農作業を手伝いに来てくれた子供たちも独立し、近々、横浜で暮らしている妻も仕事をやることになりました。自分の選択が間違っていないことが、再認識できる機会になればよいと思っています。

「主力と言いつけられる作物を見つけた」

岩本文典さん 就農二年目

大学で農業化学を専攻した後、ある団体に就職していた岩本文典さんは、新規就農制度を知り、以前からやりたいと考えていた農業を始めました。当初はニンジンを作りましたが、相場の低迷もあって現在はアスパラガスに転作し、津南町が名産として育てようとしている「雪味ニンジン」など、新しい作物にも積極的に取り組んでいます。

新たな作物を求めて模索する日々

最初は「草取りがこんなに大変なのか」と驚きましたが、未経験者がいきなり農業を始められるとは思っていませんでした。津南の制度には感謝しています。

研修先の農家には、今も何かと相談に乗ってもらっています。当初は研修先と同じニンジンを作っていましたが、相場の低迷が続いて経営が難しくなり、農業会社とも相談してアスパラガスに転作しました。ニンジンで食べていこうと決めていたので、突然の転作には戸惑いましたが、公社や研修先農家のアドバイスもあって

なんとか順調に調子に乗っています。町が新たな津南名物に育て上げようとしている「雪味ニンジン」にも取り組んでいます。雪の下で越冬させるため、ニンジン独特の臭みが消え、甘味成分も増えて子供にも食べやすい品種です。最近では徐々に消費者に認められつつあり、町内で製造・販売されている「雪味ニンジン」酢ドリンクも土産品として好評です。

このほか、トマトなどにも挑戦していますが、今のところ決め手がないのが悩みです。また、津南では土地利型の作物が主流ですが、全部一人で行って



いつまでも新参者ではいられない

本日は冬も農業をやり、年間を通じて食べていけるようにしたいのですが、現在の経営状態では施設が用意できません。しかたなく、冬場はスキー場で働いていますが、仕事は決まらずに多くなっています。誰もが働けるわけではありませんが、冬場対策は、新規就農制度全体を通じた課題

だと思っています。現在のところ、町や公社に多くの協力を仰いでいますが、私自身、いつまでも「新規就農者」ではいられません。当面の目標は、今住んでいる町営住宅を出ることです。一日も早く地元で溶け込み、より自分に合った作物や栽培方法のヒントをつかんで、もう一段の飛躍につなげたいと思っています。

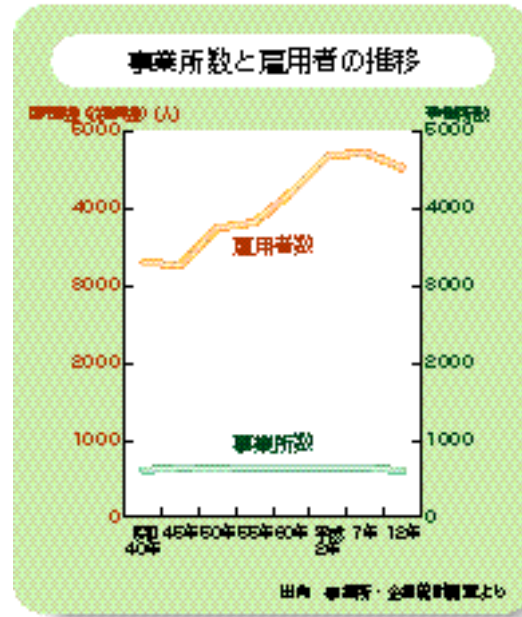
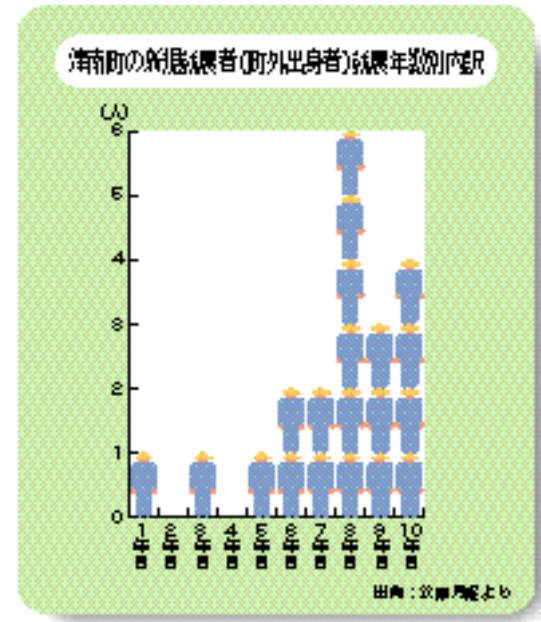
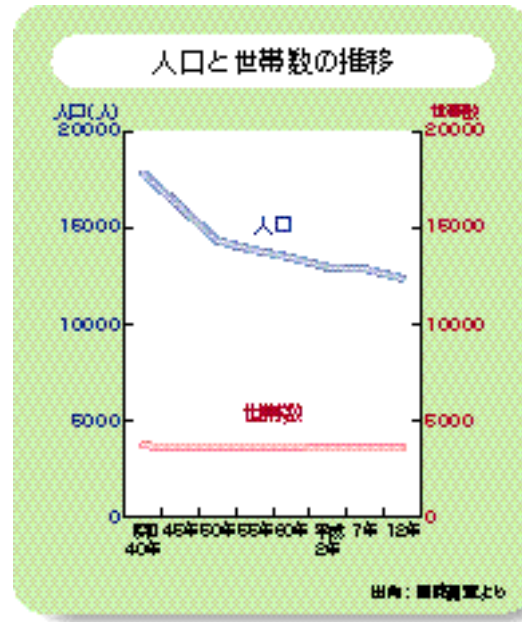
これから就農する人には、「せめて本で勉強してから来てほしい」といいたいですね。私の専門は農業化学で、農作業の知識はありませんでしたが、少なくとも農家の人たちと対等に話せる話題がありました。経験がないのなら、せめて知識くらいは身につけておかないと、自分かと思うような成長は望めませんから。



DATA PAL

津南町

お問い合わせ先 / 津南町地域振興課
〒949-8292 新潟県中魚沼郡津南町大割野
電話 0257-65-3115 URL <http://www.town.tsunan.niigata.jp>



津南町の主な畑作物

西地野菜				
作物名	面積	販売額	主な出荷先	
にんじん	47ha	71億円	東京・新潟市場	
アスパラガス	72ha	210億円	東京・新潟市場	
スイートコーン	35ha	63億円	東京・新潟市場	
東地野菜				
作物名	面積	販売額	主な出荷先	
加工トマト	22ha	84億円	カゴ(株)	
ピーマン	38ha	31億円	新潟市場	
ピーチ	60ha	220億円	日本各地(製粉)	
花き				
作物名	面積	販売額	主な出荷先	
ユリ	10ha	430億円	東京・大阪市場	
ユリ以外の花き	4ha	30億円	新潟・県内	
その他花き	8ha	63億円	東京・大阪市場	

出典：農務局より

発電所概要

信濃川水力発電所(東京電力)：出力17.7万kw 運転開始 昭和14年11月

新しく農業をやってみたいという方々へ

事例のよつに「将来、農業をやりたい、農業の技術を勉強したい」と考えている方々は、どこに相談に行けばよいか、具体的なニーズに沿った方たちで検討していきます。

最初に相談するところ
全国新規就農センター
都道府県新規就農センター
 農業体験や農業研修施設情報の紹介、新規就農者を受け入れてくれる市町村等の支援施策など、様々な就農関連情報が集まっています。

農業法人に就職したい
農業法人の求人情報
農業法人の研修情報

農地を取得したい
全国新規就農センター
農業の技術を学びたい
道府県立の農業大学校
民間の農業大学校
 高校卒業後の二年コース、短大卒業後の二年コースがあります。Uターン者のための一年以内の短期コースもあります。

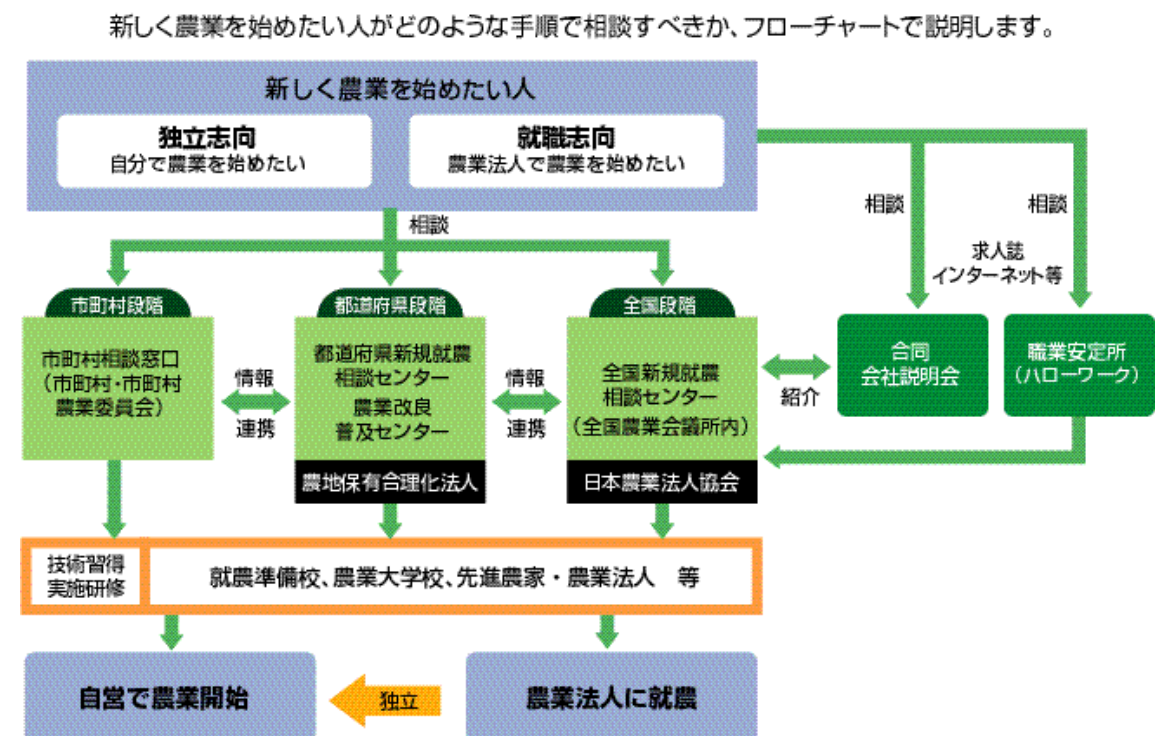
独立行政法人農業者大学校

講義や演習と先進農家での実習等を組み合わせた、特色ある三年間の教育を行っています。
落葉果樹農業研修所
常緑果樹農業研修所
 果樹農業の実践的技術を学ぶ一年間の研修を行っています。
(社)国際農業者交流協会
 海外で農業技術を学びたい方が相談できます。
就農準備校
アグリカレッジ
 就農準備校では大都市圏で働いている方が、アグリカレッジでは地方で働いている方が、現在の仕事を続けながら土日、夜間などを利用して農業技術を学ぶことができます。
E-mail塾就農準備校
 パソコンで農業が学べます。

農業を始めるためのお金を借りたい
就農支援資金
 研修や就農準備などのための資金を無利子で借りることができます。
農業改良資金
近代化資金
公庫資金

(地域のひろば 編集室)

就農相談のフローチャート



棚田オーナー制度 千葉県 鴨川市



問い合わせ先
特定非営利活動NPO法人
大山千枚田保存会
TEL:0470-99-9050
ホームページURL
<http://www.senmaida.com/>

千葉県鴨川市は、房総半島の南東部に位置する人口約三万人の都市です。温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、内陸の長狭地区では、

名産「長狭米」の稲作が盛んです。

市西部の中山間地域には、「日本の棚田百選」にも選定された「大山千枚田」が広がります。

今でこそ日本の原風景としてその価値が見直されている棚田ですが、

傾斜地に小さな田が段々状に続く、作業の効率の悪い、機械の導入も難しい厄介者として、

耕作放棄地と化しつつありました。

そこで、地元農家は、「大山千枚田保存会」を結成、

「千枚田(棚田)オーナー制度」を作り、都市住民との交流による稲作にチャレンジしました。

ここでは、都市住民との交流による棚田再生、さらには就農による定住者の確保をも目指す

大山千枚田の棚田オーナー制度を取り上げます。



農業特区申請にまで発展した
千枚田オーナー制度

十月十日、大山千枚田の拠点

「棚田倶楽部」で、平成十六年度

大山千枚田収穫祭」が開催され

ました。棚田オーナーのほか、

棚田トラスト制度や大豆畑トラ

スト制度の会員、今年から始ま

った酒づくりオーナー制度のメ

ンバーなど、約四百人が集まる

させるという、大山千枚田保存

会の活動には大いに共感し、力

を得ています」との言葉通り、

今年鴨川市は、千枚田オーナー

ほどの盛り上がりでした。

鴨川市長の代理で出席した市

農林水産課・渡辺寿雄課長の

「都市との交流により棚田を再生

に突ったことを地元農家と都市

住民が喜び、分かち合い、語り

合つ、豊かな時間の流れがあり

ました。

制度に関する農業特区を申請し、

指定を受けました。

収穫祭の主役は「新米」。地元

の主婦がおこわやおにぎり、お

すしとお米を堪能できるよつさ

ままな米料理を作り、都市住

民が味わう。大人と子供の共同

作業「もちつき」まであります。

猛暑や台風に耐えて米が無事

に突ったことを地元農家と都市

住民が喜び、分かち合い、語り

合つ、豊かな時間の流れがあり

ました。

交流から定住へ棚田再生による地域おこし

「大山千枚田オーナー制度」



オーナー制度が生み出す
交流の輪

「大山千枚田写真コンテスト」や「かかしコンテスト」の表彰式も行われました。写真コンテストには、「日本が誇る棚田の美しさを広く世に伝えたい」と願うアマチュア写真家の作品が多数出品され、優秀作品は棚田倶楽部で販売されるカレンダーにも採用されます。棚田の風景を愛する写真家たちも、大山千枚田保存会の活動を側面から支える貴重な存在です。

一年間、害鳥などから田んぼを守り続けた十数体のかかしは、ユークスを競うコンテスト終了後、地元の僧侶の太鼓と読経のなか、おたき上げて供養されます。

表彰者には地元企業から多数の商品が贈られ、棚田に集まる人の流れに期待していることが分かります。

自分で作ったお米を
担ぐ喜び

祭りの最後は、恒例の「お米ありがとう首頭」。地元の人たち



特定非営利活動 NPO 法人大山千枚田保存会 理事長

いしだみつじ
石田三示さん

二畝、棚田の枚数は三百七十五枚です。傾斜地にあるうえ、区画が狭く、形も一定でない棚田では機械の導入が難しく、省力化が進みません。そのため、高齢化による耕作放棄や後継者不足は一層深刻で、目に見えて休耕地や荒廃地が増加していました。

地元の組合は農産物直売所の開設やグリーンツーリズムの受け入れを試みましたが、地域外の人を取り込むほどの効果はなく長続きしませんでした。

平成六年には、複数の地元組合が集まって、市に対して新しい直売所の開設や農産物加工施設の整備を働きかけました。それを受けて、平成七年、市の農林水産課は、農林水産省の地域農業基盤確立農業構造改善事業制度の方向性をふまえた「鴨川リフレッシュユビレッジ構想」をまとめ、翌平成八年には国庫補助事業として採択されました。

この構想の柱の一つが棚田の管理施設の整備です。大山地区でも構想を受けて棚田保全への取り組みを始め、平成九年には任意団体として大山千枚田保存会が発足しました。保存会は、

**交流から定住へ
定住者発掘が制度の狙い**

収穫祭のにぎわい、それだけが制度の目的ではありません。オーナー制度が地域を興し、この地に定住を望む者を発掘すること、これが真の目的です。制度創設の経緯やしくみ、狙いについて、NPO大山千枚田保存

会の大山千枚田の水田面積は約三・田んぼを守りたい
安易なグリーンツーリズム
ではだめだった

地権者約二十名、地元有志住民約百二十名に加え、公募による都市部の支援者約三百七十名で構成されています。

**都市住民は仲間
発想の転換が
制度を生み出す**

「棚田を都市住民に提供する」とこんな考え方ははじめからあったわけではないと、石田さんは振り返ります。

「このあたりの地域おこしは『都会に負けるものか』という都会に対する対抗意識ばかり強いものでした。都会の人が棚田のよさをわかってくれるなどとは考えもしなかったのです。しかし、十数年前都会から鴨川に移住して農業を始めた人から、『都会と田舎との親せきつきあい』という発想を教えられました。棚田オーナー制度は『都会人は仲間』という発想の転換が生み出したものなのです」

「自分の子供でさえ耕さない田んぼで、米を作ってみたいという都会の人がたくさんいるんだ」この石田さんの言葉でした。

平成十一年には、大山千枚田が農林水産省の「日本の棚田百選」に選ばれ、東京に最も近い棚田として注目されました。地元にも棚田に対する誇りが生まれ、同年の秋には、三十九区画四十六枚の棚田を選び、一区画約百平方メートルを三万円で募集したところ、予想をはるかに上回る百七十名以上の応募があり、三十九名のオーナーが選考されました。

また、平成十二年には地域農業基盤確立農業構造改革事業（農業資源活用型）を利用して、棚田の管理施設「棚田倶楽部」が完成し、オーナーのみならず、棚田を訪れる人々の憩いの拠点となりました。

平成十二年の米作りの季節には、オーナーたちは家族や友達

オーナー制度の特徴

大山千枚田の棚田オーナー制度には、次のような特徴があります。

1 農地の契約形態

制度の開始時には農地法の制約があり、市が農家から農地を借り上げ、市がオーナー個人と農地利用契約を結ぶ形態をとりまし



「地権者に『土地を貸りたい』と頼んでも、不思議そうな顔をされるだけでした。都会の住民に棚田を貸すことが地域おこしにつながるなんて、想像すらでき

棚田オーナー制度 千葉県 鴨川市



3月 中旬
田おこし



5月 中旬
田植え



6月 月上旬
草刈り



7月 中旬
8月 下旬
草刈り



9月 月上旬
稲刈り



10月 月上旬
収穫祭

棚田オーナー制度の仕組み



な右図参照)。更新期間も農地法の制約から最大五年間です。

棚田の管理や制度運営は大山千枚田保存会が請け負い、農業の指導やオーナーとの交流は保存会に所属する地元農家が行います。

現在は大山千枚田に加え周辺四集落の棚田のエリアが全国でも珍しい棚田に関する農業特区に指定され、平成十六年度から周辺四集落の棚田については、農業特区の制度を活用して地元

農家とオーナーとの直接契約や五年間を超える更新も可能となり、本格的なオーナー制度を実現しています。

2 田に入ることも参加条件

オーナーは、年八回の作業日に現地へ足を運び、積極的に田んぼに入って農作業を行うのが原則ですが、無理なときは地元農家が応援します。地元農家の指導による農作業なので、農業の未経験者でも安心して取り組みます。

く、オーナーよりも横のつながりが密なほどです。

ほかに、大豆畑トラスト制度や、酒米を作る酒づくりオーナー制度など、数多くの制度が作られています。棚田に人が集まるのを見て、畑地を貸したいという人も現れ始め、畑によるオーナー制度の検討も進んでいます。

既に四名が定住 若者も移り住んできた

大山千枚田の棚田オーナー制度の定員は、現在は百三十六名、

毎年の新規は十数人分しかありません。多数の応募に伝えるため、周辺の集落でも同様の制度を創設して、保存会からの紹介でオーナーを集めはじめました。「各集落には、『田んぼで稼ぐ』ことが目的ではない、人を集めることが集落にとって大切なんだ」と口を酸っぱくして言い聞かせています。集落ごとの特色を出し、農作業の面倒をしっかりと見て運営すれば、人は必ず定着してくれます。実際、大山千枚田と同様、多くのオーナーが翌年

3 収穫よりも棚田の保全

オーナーと保存会とが交流を通じて、協力しながら棚田の耕作を継続し、美しい景観を保全することが目的なので、一定の収穫を約束する制度ではないことも特徴の一つです。

収穫よりも、子供への環境教育、あるいは将来の田舎暮らしの足がかりになることを考えている制度です。

オーナーからトラスト制度へ 交流が生んだ制度の広がり

オーナー制度の準備を想定して創設された棚田トラスト制度は、オーナー制度の成功の証といえるかもしれません。一口三万円の参加費で、田んぼ五反を五十口(一口当たり百平方メートル)でトラストし、共同作業で稲作を行うしくみです。日常の管理

は保存会が行い、収穫したお米は参加口数に応じて均等に配分されます。「気軽に稲作を体験したい」という層を中心に、オーナー制度とは違った人気を集めています。

「田んぼに来ることは『義務』でなく『権利』です。稲作を楽しむ権利を譲うと思えば、自然に足も向くはず。共同作業は棚田を愛する仲間と知り合える場でもあるため、参加率は高



度への更新を希望しています。都市との交流で棚田を保全するという目標を達成した棚田オーナー制度ですが、石田さんは「交流が本来の目的ではありません」と強調します。

「いちばん大事なことは、将来の地元が『この人に来てほしい』と思う人が定住してくれることです。五年間交流を続けられれば、

農家の人柄も分かってもらえます。その上で『定住したい』と言ってくれる人なら、地元も安心して迎えられます」

鴨川に移り住んだオーナーは、定年組、若者を含わせて計四名です。さらに、都会にも住居を持つ半定住の人や土地を探している人を含めれば、その数は倍以上にのびります。

「地域にはいろいろな個性が必要です。棚田オーナーには、大卒教授や気象予報士などの多彩な人材がそろっています。その人たちに力を借りながら、鴨川の地域おこしを進めていくことが、棚田オーナー制度の究極の目標であり、私たちの夢でもあります」

棚田オーナーはこんな人たち

法政大学人間環境学部・環境サークルの皆さん

サークルで190平方メートルの棚田のオーナーとなり、月一回は訪れています。田植えは、今や新入生歓迎の恒例行事となりました。

収穫祭などの準備では、前日から泊まり込んで手伝いをする代わりに、宿泊費を免除してもらっています。OBの中には、保存会の運営に加わって活躍している人もいます。



東京都大田区から来た越智さん

雑誌で棚田オーナー制度を知って申し込み、今年で五年目になります。ご夫婦そろって、年に六回ほどは棚田を訪れます。「五年間通ったので、一通りのことは自分のできるようになりました」と語る越智さん。手作りの農業にすっかり魅せられています。



千葉県船橋市から来た小原さん父娘と岩浅さん一家

ご近所同士の小原さんと岩浅さんは、「農家の手助けがなければ、とてもお米は作れません」と、地元農家に感謝します。「子供たちに、土に触れて作物を作る喜びをもっと教えたいですね」と、今後も続ける予定です。最近では子供たちもお米の大切さが身に染みたらしく、こぼしたご飯も拾って、一粒残らず食べるようになりました。



左：小原さん父娘 右：岩浅さん一家

「地域のひろば」で、「ふるさとじまん」を紹介します。

皆様の地域の「ふるさとじまん」の写真とコメントをどしどしお寄せください。
お問い合わせ先 電源地域振興センター 企画調査部広報課

電話 03-5562-9730 FAX 03-5562-9802 e-mail kouhou@div.dengen.or.jp



越のルビー

梅などの野菜や花卉の畑作園芸も盛んな地域です。
秋の味覚の女王は、越前柿です。平種無という四角い形が特徴の渋柿を二酸化炭素による「ガス脱渋」で一週間かけて行うことにより、日持ちのよい「あわせ柿」となり、みずみずしくおいしいままの状態が皆様に届けることができます。
柿はヘルシーフルーツの横綱。「柿が赤くなると医者が青くなる」と言われています。



あわら市役所 市長室 政策調整課
電話 0776-73-8001
URL <http://www.city.awara.fukui.jp/>



越前柿

知恵と丹精で
秋の味覚の女王に！

福井県 あわら市

電源地域から届いた

ふるさとじまん

秋田県 八竜町



高級メロンを原料に使った
メロンワイン「太陽のしずく」



八竜町は秋田県北部に位置し、日本海と八竜湖に面した平地農村地帯です。メロンが特産品で、六月から八月にかけてはメロンの収穫期で、購入に訪れる観光客でにぎわいます。
メロンを使った特産品として開発したワインは、降り注ぐ太陽のもと、日本海に面した砂丘畑で育った、高級メロンをぜいたくに使っているため、太陽のしずく「と命名されました。
冷たくひやしてお召し上がりください。甘くてさわやかなメロンの香味が際立つ逸品です。アルコール度数を低く抑えているので、女性にも



砂丘温泉ゆめろん
電話 0185-85-4126
URL <http://www.shirakami.or.jp/yumeron/>

人気があります。

販売は町の唯一の温泉、砂丘温泉ゆめろんで取り扱っています。日本海や世界遺産の白神山地帯を一望できる高台に位置しているすがすがしい気分が味わえます。お風呂に入ってから白神山を眺めながら「太陽のしずく」を味わうのはいかがでしょうか。

山口県 福栄村

自然の物をそのまま
炭にしてみました！



「お炭つき」字印によって内容物は多少異なります



「福の里企業組合」のみなさん

鉄道も国道もない。もちろんコンビニもない。信号機は一つあるだけ。赤瓦の家屋と竹林がのどかな田園に映える。
「人にとっておきの村」福栄村に、平成九年にオープンした道の駅「ハビネスふくえ」の売店で、現在、ひとときわ注目を集めている商品が「お炭つき」です。「お炭つき」は、松ぼっくり、クリのイガをはじめ、ナス、カボチャ、トウモロコシなどの野菜まで自然の産品をそのまま「炭」にしたもので、インテリアグッズとして最適です。また、かこの底には除湿効果の強い竹炭がたくさん敷いてあり、お部屋の脱臭や浄化にも効果があります。
生産者は、特産品生産グループ「福の里企業組合」の女性たちで、平成十五年一月に企業組合になり、ますます意欲的に取り組んでいます。「お炭つき」を始めとする特産品を一品一品、心を込めて手作りで生産しています。



福栄村役場 企画調整課
電話 0838-52-0122
URL <http://www.joho-yamaguchi.or.jp/fukuesho/index.html> (福栄村商工会)

福の里企業組合
電話 0838-53-0824

千葉県 袖ヶ浦市

袖ヶ浦の豚がまはっぴー
「たちはひめ弁当」



「たちはひめ弁当」



「手作りみそ」

「いんげんのつくた煮」

袖ヶ浦市内で生産される農畜産物を材料にして、袖ヶ浦のおかあさんたちが心を込めて作る「たちはひめ弁当」。太巻き寿司や野菜のかき揚げ、煮物など季節によって内容が変わります。四季を感じる袖ヶ浦百パーセントのお弁当です。ぜひ味わってみてください。

また、特産品としては、自然派志向にびつたりの、低塩で保存料を一切使わない「手作りみそ」や、「いんげんのつくた煮」

お弁当のおかずや

お酒のおつまみに最適ないんげんのつくた煮(甘口、甘さ控えめあり)などがあります。



(問合せ先)
袖ヶ浦市観光協会(袖ヶ浦市役所経済振興課)
電話 0438-62-2111 内線365
URL <http://www.city.sodegaura.chiba.jp/>

(注文先)
JAきみつ平川経済センター
電話 0438-75-2001

分科会I / 地域ブランド開発セミナー

講師：(有)インフォナビ 代表 上野佳恵

事例発表1 高知県 馬路村
ゆずの市場開拓から地域づくりへ
～ゆずを売り村を売る
山村マーケティングの手法～

事例発表2 静岡県 富士宮市
やきそばによる「まちおこし」で、
全国ブランドに成長した
富士宮やきそば

分科会II / 海洋資源を活用した
高付加価値商品開発セミナー

講師：(株)水士舎 代表取締役 乾政秀

事例発表 長崎県 松浦市
『旬あじ・旬さば』ブランドの展開

分科会III / ソフト資源を活用した
まちづくりセミナー

講師：(株)ソーリズム・マーケティング研究所
主席研究員 松井一郎

事例発表 秋田県 峰浜村
かやぶき民家集落「手道坂」

なぜ、自信を持って送り出した商品やサービスが評価されないのでしょうか？
地域資源活用の第一歩は、商品やサービスの「他とはここが違う」という違いを客観的に認識し、自分たちの地域や産品を冷静な目で分析することです。小さな違いでも、それを強調してアピール力を高めることで差別化が可能になります。そして、あえて違いを強調しなくても、「A町の」として認知されれば、まさに地域ブランドの誕生です。

この検討会では、それぞれの地域が持つ資源の付加価値を高め、地域ブランドへと育て上げてゆくノウハウを学びました。



「違い」を見つめ直すことで 地域ブランドの創造を

地域資源活用検討会

コーディネーター
(有)インフォナビ 代表

上野佳恵

地域価値創造力

地域独自の価値を創造する力に重点を置いたプログラム

「エネルギープラザ2004 宮城・女川町」を開催

今年で十九回目を迎える「エネルギープラザ2004宮城・女川町」を去る十月二十七日(水)から二十九日(金)ま



で宮城県女川町にて開催いたしました。今回のエネルギープラザには全国から五百六十名に上る電源立地地域の関係者にお集まりいただき、「地域価値創造力」を全体テーマとして、地域住民の生きがいや地域アイデンティティといった「地域独自の価値を創造する力」に重点を置いたプログラムを展開しました。

初日の開会式では、資源エネルギー庁の小平信因長官よりごあいさつ(細野哲弘次長が代読)をいただき、続いて株式会社文化事業部代表取締役・株式会社樹一市村酒造場取締役のセーラ・マリ・カミングス氏が、「地域価値を見いだす発想と視点」をテーマに講演を行いました。

二日目は、三カ所の会場に分かれて地域振興事業検討会を開催しました。各検討会では、コーディネーター・講師による基調講演やパネルディスカッションの後、少人数によるセミナーやゼミ形式の分科会を多数実施。各地域における成功事例の発表や質疑応答を通じ、活発な意見交換が行われました(詳細は次ページ以降参照)。

また、同日から翌三日目の午前中にかけて、地元女川町を取り上げた、観光振興ケースメソッドも開催しました。ケースメソッドとは、参加者と講師との双方向的な議論を重ねながら問題解決を図る、実践直結型プログラムです。手法の特徴は、講義を行わない、教科書に沿わない、複数の答えがあり得る、の三点で、

女川町の観光振興をテーマに ケースメソッドを開催

ことにある」と伝え、地域の文化や産業特性をふまえた地域ビジョンを創造することの重要性が説かれました。



お城海浜事業検討会プログラム		
10月28日(水)	10月29日(木)	10月30日(金)
地域資源活用検討会	地域振興事業検討会	地域産業振興検討会
約100名	約100名	約300名
基調講演 パネル ディスカッション	基調講演 パネル ディスカッション	基調講演 パネル ディスカッション
地域資源を活用したまちづくりのゼミ	補助金活用促進の事例発表セミナー	観光振興の事例発表セミナー
地域ブランド開発セミナー	新しい手法の活用セミナー	観光振興の事例発表セミナー

10月29日(木)
「女川町をケースとする
観光振興ケースメソッド」成果発表



URL <http://www.dengen.or.jp>

アンケートにご協力ください
アンケートが裏面にございます

「地域のひろば」編集室では、紙面づくりに活かすため
読者の皆様のお声をお待ちしております。

アンケート用紙の裏には、お名前などで切り取り、アンケートに記入の上二つに折り、のりしろ部分にのりをしっかりとつけはり合わせ、ポストにそのまま封入してください。
(フックスが送られる場合は、コピーをとりお送りください)

FAX 03-5562-9802
e-mail kouhou@dlv.dengen.or.jp



信濃川水力発電所

107-8740

料金を取人払
アーケードビル
内局承認
402

東京都港区赤坂1-12-32
アーケードビル11階

発行有効期間
平成18年8月
28日まで
お手紙は必ず
おしりください

財団法人
電源地域振興センター
「地域のひろば No.188」編集室行



1078740

地域の事業や特産品開発などまちづくりに関する
情報をお寄せください。

分科会I / 観光商品開発セミナー

講師：(株)東北地域環境研究所 代表 志賀秀一

事例発表1 秋田県 横手市・田沢湖町
第三セクター経営再生と地域エネルギー

事例発表2 新潟県 村上市
村上町屋の地域活性化の取り組み

分科会II / 少子高齢化時代における地域活性化セミナー

講師：経営デザイン研究所 代表 川村志厚

事例発表 岩手県 葛巻町
定年なし生涯現役の『森のそば屋』と『みち草の驛』

分科会III / 漁業と観光の一体化による地域振興セミナー

講師：クラブアグループ 代表 松田猛司

事例発表 徳島県 牟岐町
民間事業者と漁協の協働による地域づくり事業

女川町をケースとする観光振興ケースメソッド

講師：(株)東急総合研究所 上席主任研究員 吉野有助



強く豊かで、魅力ある地域を作り出すには、市町村の枠組みを超え、民間企業や地域住民も含めた地域経済全体を考へることが大切です。そして、単に経済だけを伸ばすのではなく、地域全体の循環を考へて、システムとしての持続可能性を探ることが重要なことです。

地域レベル、全国レベルへと広げてゆく発想が必要です。例えば、市町村合併をチャンスととらえ、コミュニティビジネスや医療福祉・介護など、地域ニーズをきめ細かくくみ上げることで、可能性が広がります。

地域産業振興検討会

地方分権時代の魅力ある地域作りに向けて

「アズネット」
代表 (株)東北地域環境研究所 志賀秀一

志賀秀一

分科会I / 補助金等資金の有効活用セミナー

講師：(株)日本総合研究所 上席主任研究員 岸田拓士

事例発表1 秋田県 藤里町
公と民の強さを備えた第三セクターづくりで地域貢献をめざす

事例発表2 福岡県 福岡市
高齢者満足度を追求し、商店街再生と地域活性化を推進

分科会II / 新しい手法の人材活用セミナー

講師：(株)Y・プロス 代表取締役会長 安田孝雄

事例発表 島根県 浜田市
新たな人材活用による漁村の再生

分科会III / 知的財産活用セミナー

講師：(財)北海道科学技術総合振興センター 研究開発部 部長 山中芳朗

事例発表 青森県 稲垣村
稲わらルネッサンス
～稲わらの現代的再生で地域を活性化～

三位一体改革が進み、補助金の是非が問われています。「地域の豊かさは地域が自ら選択・決定し、結果に責任を負う」という、地方分権時代の地域経営には、従来とは違う新しい補助金の活用方法があるはずです。

大切なのは「はじめに活動意欲ありき」の考え方です。地域資源を発見・活用し、独自の活動を行うために、ともかく動いてみることで、有効な支援制度を探し、なければ他の支援制度の変形や組み合わせを考える。それもためなら、新たな支援制度を自ら提案する。住民と行政との協働が求められます。

地域振興制度の原点は、住民の活動支援です。補助金などの経済支援だけでなく、法的手続や事務手続での支援が有効な場合もあります。構造改革における特区制度も、新しい支援制度の一つです。

この検討会では、行政が「支援制度のアドバイザー」となつて地域独自の元氣な活動を支える、新しい形の地域振興制度の活用を考えました。



地域振興制度活用検討会

(株)日本総合研究所
上席主任研究員

岸田拓士

「電気のあるさとじまん市 札幌」開催のお知らせ

平成十七年二月三日(木)～二月七日(月)の五日間、北海道札幌市の丸井今井札幌本店大通館 九階催事場で、(財)電源地域振興センターが主催、経済産業省、北海道経済産業局から後援をいただき、電気のあるさとじまん市札幌を開催します。

この物産展は、電源地域市町村のたゆまぬ努力と創意工夫によって生み出された特産品の販路拡大や交流活動を目的に毎年一度、各地の主要都市を選定して開催しているもので、今回が十二回目になります。北海道から沖縄までのさまざまな電源地域市町村が出展を予定しています。皆様のお越しをお待ちしております。



前回の会場の様子

URL <http://www.dengen.or.jp>

URL <http://www.dengen.or.jp>

「地域のひろば」に関するご意見・ご要望をお寄せください。

お名前 _____

お住所 _____

ご職業 _____ 電話番号 _____

どちらでのご覧になりましたか? _____

お申し込みの趣意を添付した「地域のひろば」の資料をお送りいたします。この資料は、ご意見・ご要望のみに基づきます。

地域のひろば

No. 188

特集 電源地域のサクセスストーリー

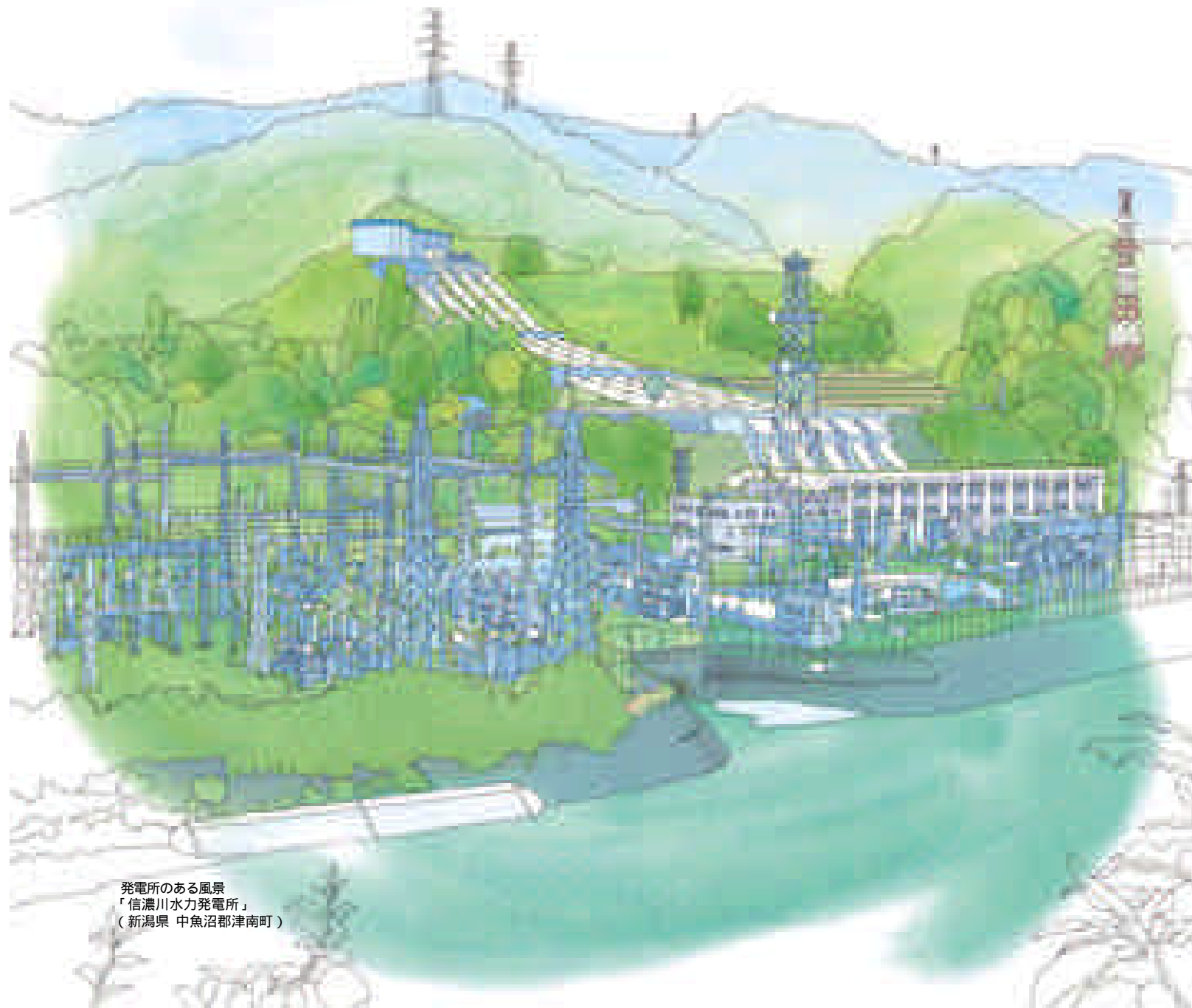
新規就農革新

受け入れ機関の一元化で素人就農を支援
新潟県 津南町「津南式新規就農者支援制度」

FOCUS 政策・制度

棚田オーナー制度

日本の原風景「棚田」を守る地方と都市の交流活動
千葉県 鴨川市「大山千枚田オーナー制度」



発電所のある風景
「信濃川水力発電所」
(新潟県 中魚沼郡津南町)

電気のふるさと応援マガジン 地域のひろば 通巻百八十八号 平成十六年十一月二十日発行 発行・財団法人電源地域振興センター



本誌の取材にご協力いただき、ありがとうございました

この冊子は、経済産業省資源エネルギー庁の委託を受けて作成したものです

財団法人 電源地域振興センター

〒107-6011 東京都港区赤坂一丁目12番32号アーク森ビル11階
電話 03-5562-9711(代表) URL <http://www.dengen.or.jp>
(本冊子は再生紙を使用しています)

読者の皆様からのご意見・ご感想を反映したいと思います
アンケートにご協力をお願いします